

女性医師支援センター便り

平成29年度医学生・研修医支援セミナー



宮城県女性医師支援センター委員
 東北大学大学院医学系研究科呼吸器内科学分野助教
 玉井 ときわ

平成29年6月6日に東北大学星陵会館大会議室において宮城県医師会・宮城県女性医師支援センターの主催、日本医師会との共催で医学生・研修医支援セミナーを開催した。本会は毎回多彩な場で活躍している医師を招き、今後のキャリア形成、子育て等の様々なライフイベントとの両立などをテーマに特色ある講演や意見交換がなされ、毎年好評を得ている。コーディネーターは東北大学病院遺伝子診療部福與なおみ先生、総合司会は東北大学病院輸血・細胞治療部藤原実名美先生で進行した。

特別講演は「新しい専門医制度について」と題し東北大学環境・安全推進センター講師の田畑雅央先生より、主に日本内科学会の新専門医制度を軸に新専門医制度の概要の解説が行われた。新専門医制度は見直しをされながら来年4月からの開始が見込まれている。初期研修修了後の専門研修は従来までは各学会独自の専門医を目指し個人が自由に医療機関を選択する形式であったが、今後は日本専門医機構が認定したプログラムにエントリーし、連携施設で一定期間研修を行うことが義務づけられる。プログラムは医師の偏在を防ぎ定員が設けられており、募集は本秋を予定している。医療機関の異動はプログラム内の施設に制限される点など注意を要し、内科とサブスペシャリティ専門医の研修は2年間併行できること、内科専門医の認定に必要な症例のうち初期研修での症例を半分まで登録できるため、初期研修のうちから意識的に計画していくのが望ましいとアドバイスがあった。新専門医制度について現時点での最新情報の解説で、会場からの質問も熱をおびたものとなった。



福與なおみ先生

NO PHOTO

田畑雅央先生

シンポジウムのテーマは「キャリア形成のヒント～私の選んだ道」として4人の異なる立場で活躍中の先生の講演が続いた。東北大学病院循環器内科の山本沙織先生は女性の比率が低い循環器内科の中で2人の子の育児をしながら一線で勤務している日常や、循環器内科の勤務内容を紹介した。女性医師が働きやすい環境は医師が充足していることが要件となると挙げ、男女関係なく早く仕事に区切りをつけられるように互いに協力しあう勤務環境改善への取り組みを紹介した。また、仕事と私生活の両立には自分一人では抱え込まず、あらゆるバックアップを利用することが重要であると強調した。続いて東北大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科の中目垂矢子先生は、耳鼻科の特色として診断から治療まで自らの診療科で一貫して行える、すべての年齢層の患者の診療に携わるところが魅力と述べた。耳鼻科専門医取得の後も豊富な進路があり、頭頸部外科医として手術の鍛錬に励みながらも内科的な視点で診療を行う稀少な頭頸部内科の経験や、標準治療の策定のための臨床試験に携わるなど自身のキャリア形成の過程を紹介し、耳鼻科で活躍中の女性医師の多岐にわたる進路についても提示した。東北大学病院眼科の新田文彦先生は2児の育児をしながら、数少ない小児循環器内科医師として市中病院で活躍中の奥様との共働きの日常について触れながら、診療科が違う医師同士で生じがちな勤務地が離れる等の問題を上司への密な相談でうまく乗り切った事例を紹介した。また、キャリアの形成は他者からより必要とされることが原動力になっていく、自らの価値を高める努力が重要と強調した。若い医師へ向けて進路を決断した後は迷わず早いうちに飛び込め、と力強いエールを送り締めくくった。最後の演者は宮城県保健福祉部技術参事兼疾病・感染症対策室長の大内みやこ先生で、小児科医として長年幅広い診療分野を経験した後に公衆衛生医師へ転身した。公衆衛生医師とは全国の保健所や都道府県県庁等で働く医師であり、責任ある立場で行政に携わっている自身の職務内容について紹介した。小児科医時代からの保健所職員との縁などに触れながら医師免許は非常に柔軟な資格であり、現在の仕事から継続して未来まで発展していける、多様な勤務形態がありライフイベントに応じた一進路としての選択肢となりうる点について述べた。各演者からの多彩な講演内容で37名の出席者があり盛会のうちに閉会した。

NO PHOTO

山本沙織先生

NO PHOTO

中目垂矢子先生

NO PHOTO

新田文彦先生



大内みやこ先生